

第644号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2022年11月16日
 発行責任者 喬木村公民館 長 徹
 市 瀬 公民館 編集部長
 編集責任者 仲田 久志
 印刷 龍共印刷株式会社

第二回公民館平和学習会『世界はスプリットスクリーン』 私たちが見ていかなければ ならない世界とは

今年二月にロシアがウクライナへ軍事侵襲して八カ月余、目を覆いたくなる報道に日々接し、怒りと悲しみに胸が痛くなります。今回は、阿島出身、NHK国際部記者やニュースキャスター等として活躍の市瀬卓さんに、ウクライナをめぐる世界情勢についてご講演いただきました。

九月にウクライナが反転攻勢に転じ、ロシアは四州併合、今や極めて危険な消耗戦に陥っている状況をどう捉えれば良いのか。市瀬さんは、世界をひとつのモニターで見るとはならず、ロシアや中国の視点があることを理解することが重要と

し、ウクライナの歴史、地理的環境、欧米諸国とロシアや中国などの動きや関係について幅広く語られました。

青空とひまわり畑という国旗に象徴されるウクライナは豊かな大国でヨーロッパの穀倉として、またロシアにとっても大事な国であり、ロシア対ヨーロッパの最前線として戦争が起きている。長期戦となり、欧米も経済の疲弊が進みウクライナ支援が厳しく、ロシアもまた三十万人の予備役動員への反発など国内から反発が始め、プーチンの終わりの始まりとの見方も出ている。世界はウクライナ危機により新たな民主主義

が、老犬を連れて「わたし」の家を訪ねてきた。婆さんは、老犬を、広場に連れていく前に、マヤや「わたし」たちと最後の別れをさせた

ある秋の夕方。一台の特攻機が、畑の中突っ込んでいった。十七・八歳の兵士が気絶したのか、身動き一つせず、操縦席に座っていた。ドーンという音と共に赤黒い炎が立ち上った。周りに集まった町の人たちは、



ウクライナについて語る市瀬卓さん

文化展示ウィーク
 分館の活動
郭分館の取り組み

作りにしました。ひと言に、「水引」といっても多種多様で、初心者が始めるには、少し敷居が高いものです。そこで、今回は講師の先生をお迎えして、あらかじめ準備してもらった、水引のパーツ（鶴や亀、松など）を組み上げて、門松などのお正月飾りや、クリスマスリースを作ることをテーマにしました。

教室には、中学生のお子さんから、年配の方まで、十人以上が参加して、気軽に楽しみながら、個性豊かな作品を作ってくれました。そして、慣れてきた人は、講師の先生に教わりながら、箸置きや、瓢箪の飾り、少し難易度が高い、「叶結び」を用いた、亀の飾りを作ったりしました。さらに、その作り方を教わった人が、新たな「先生」となり、他の人に作り方を教えることにしました。

また、講師の先生の言葉の端々から、飯田地方の水引の歴史を垣間見る事ができ、伝統文化の大切さを知り、良い機会にもなりました。



郭分館作業の様子

『棕鳩十ものがたり』78

『棕鳩十全集』 掲載作品
 棕鳩十記念館・記念図書館長 菅沼利光

「マヤの一生」
 昭和四十五年

戦争はますます激しくなっていく。そんなある日。「食料の乏しいときに、犬など飼っているのは、ぜいたくだ。決められた日に、飼い犬を、種畜場の広場に連れてくるように」という通知が配られた。「わたし」

ある日、オキヌ婆さん



まいったのだ。町の人たちは、犬を差し出さない「わたし」の家族やマヤを憎むようになっていった。

翌日、「わたし」が家に帰ると、マヤの声がしない。事情を聞くと、お巡りさんと地区の世話人さん、役場の人も一緒に、「今日、犬を出すように。命令だ。」とマヤを連れて来たというのだ。せめて最後の食事をとらせたいという願いも、聞いてもらえず、マヤはその場から広場に引張って行かれることになった。マヤがかわいそうだと次男と三男は、マヤを結わえた縄をもって広場まで送った。広場に到着すると、マヤは血の匂いをかき取り、牙をむき出しあらび回った。お巡りさんと世話人、役場の人は、縄をしつ

先月の館報で紹介したように、今年、小中学校が開校百五十周年、七十五周年の節目の年を迎える。学校は周年行事を行って節目を祝うことが多い。周年行事はどのようなものがぞましいのだろうか。

私は多くの学校で、この〇〇周年に出くわすことが多かった。現役最後の年度は、飯田西中学校が七十年の節目の年であった。赴任当初から生徒にとつて記憶に残る記念行事にしたいと考え、どんな事業が良いか思案していた。そんな折、リオデジャネイロオリンピックのカヌー代表に、西中出身の矢澤兄妹が選ばれたというニュースが飛び込んできた。「これだ！」。母校出身の先輩が日本代表としてオリンピックに出場する。この応援を生徒が主体になって行うことを記念事業にしようと思った。

生徒会主催、地域と教育委員会、体育協会、県カヌー協会共催の壮行会を学校で開催し、生徒が寄せ書きした日の丸を贈ってリオに送り出した。オリンピック終了後には報告に来ることも約束してくれた。大会当日は、地域主催のパブリックビューイングが公民館で行われ、希望者が集まって盛り上がり上がった。残念ながらメダルには届かなかったが、報告会に来た妹亜季さんは、「東京オリンピックで金メダルを目指す」と力強く決意を語った。

私は子どもが主役になれる周年事業がいいと思う。子どもが主体的に事業に取り組むことで、積み重ねられてきた母校の歴史の重みを感じ、母校への誇りと愛着を深めることが大事だと思う。(館長)

公民館教養部 楽遊塾第1講座

映画「息子」上映

十月九日に「息子」の映る作品でした。皆さんの日常がより豊かに... 養部の活動を続けていきたいと思います。

山田洋次監督 一九九一年の作品で、たくさんの映画賞を獲得したようです。三十年以上も前の作品なのですが、家族のあり方は変わらないのです。



椋鳩十記念館・記念図書館開館三十周年記念 『椋鳩十と原田泰治二人の世界／画文集【太陽の匂い】原画展』

原田美室さんギャラリートーク開催



去る十月二十三日(日)、現在行われている原画展の企画として、原田泰治さんの長女・原田美室さんによるギャラリートークが開催されました。

培った「虫の目、鳥の目」で描かれた絵を、国や人種を超えて受け入れられたこと、また、シンガーソングライターのだまさしさんとの出会いなど、娘としての視点から父・原田泰治さんの絵や出会った人々、生き方、家族としての苦労も交えて語ってくれました。

第二十七回村民ゴルフ大会が十月十九日(水)、喬木カントリークラブで開催され、十四分館九十九名が参加しました。なお今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、開会式および表彰式の参加人数を少なくする、全体の慰労会を取りやめるといった対策を講じた上での開催となりました。

第27回村民ゴルフ大会 開催される



団体の部で優勝した北分館

よび参加された方々、大変お疲れ様でした。

- <団体の部> 優勝 北分館 準優勝 伊久間分館 3位 南分館
<個人の部> 70歳未満の部 優勝 西村博幸さん(北) 70歳以上及び女性の部 優勝 根井敏文さん(北)

お知らせ

ふるさとづくりフォーラム

日時: 11月27日(日) 13:30~ 場所: 中央社会体育館
内容: SDGsを知ろう! 考えよう! 取り組もう!
申込: 11月22日(火)までに公民館(33-2002)にお電話いただくか、右のQRコードよりお申込みください。



喬木村 駅伝大会

日時: 12月11日(日) 9:00スタート
場所: 運動公園グラウンド付近
コース: 運動公園グラウンド=帰牛原辻=運動公園グラウンド周回コース 4区間計7.8km (1区間1.8~2.2km)
申込: 11月25日(金)までに教育委員会(33-2002)又は右上QRコードよりお申込み下さい。
参加資格: 村居住者・村出身者・村内事務所勤務者・喬木村体育協会団体登録者 ※小学4年生以上に限ります



たかぎ短歌会

神無月歌会詠草

百歳の生涯終えし媪より学び得しこと胸にあたたむ

知久 美子

彼岸過ぎ涼しい風が頬撫でる淡紅でかれんなコスモスゆらぐ

小椋 りよ

数かずの思い出づくりしてくれしジイジのお棺離れぬ孫ら

市瀬 准子

偉大なる女王の柩は静静と縁の地より惜しまれつつゆく

内山 貴子

華やかな衣装で踊るヘルパーさん敬老会のスターとなりて

木林 睦枝

久々にグラジオラスを活ける朝厨は華やぎ梅雨開けるらし

田中 妙子

大粒の栗を気長に渋皮煮分けやる人等の顔浮かべつつ

内山 和子

早ばやと炬燵作りて昼休み忙い中にも小さな幸福

木下 寿子

草取りの出来ないままの赤き紫蘇ルビー色したジュースとなりぬ

元島 康子

「人の話聞くのが特技」とう総裁の云いし言葉は重き足枷

塩澤 静男

ミサイルを逃れて来たる白鳥等「キエフバレエ」のオデットの舞

福澤 亀人

熊谷さん 剣道全国大会出場

第四十六回全国道場少年剣道選手権大会(十月十二日開催)に小・中学生男子の部で出場された熊谷俊祐さん(喬木第一小学校六年・帰牛原)の激励会が十月十二日に行われ、村及び村体育協会から激励金が授与されました。



激励会の様子

生の姉をはじめ、同じ喬木剣道クラブに通う生徒の皆さんと練習してきました。大会は第一回戦惜敗という結果にはなりませんが、今回の経験を生かし今後のご健闘をお祈りいたします。

朝も段々と寒さが増して来て、紅葉も始まり秋も深まって来た。市田柿も忙しくなり、冬へ向かってもう一仕事というところか。相変わらずコロナは収まらず何かスッカリしない。ウクライナでは戦争の終わりは見えず、北朝鮮はミサイルをどんどん撃っている。何か混沌とした世の中で先行きどうなってしまうのかと不安になってしまふ。そんな中、文化展示ウィークの展示を見た。力作が並んでいて、ほっとした様な、思わず微笑んでしまう様な、少し心が温かくなつて来た。

(編集部)

編集後記